

# 春のふるさと交流会



まだ開いていない売店



三重やくら



今年のイベント 人力車

恒例となった春のふるさと交流会、高田城址公園での観桜会は四月八日〜九日に開催致しました。ご夫婦四組を含む参加者二十八名、遠くは名古屋からお越し頂きました。

長野新幹線で碓氷峠を越えると残雪が見え始め、信越線新潟県境は一面の雪で覆われていました。今年の開花は遅れているのは承知ですが、これ程までとはと不安です。

二日目は名立区近辺の見学です。車中での見学を聞きながら最初に訪れたのは

集合場所の「Jネットの桜」はもとより三千本の桜も堅い蕾でした。寒さを感じるほどの気温ではなかったのが救いました。

は遠く能登半島、佐渡島まで見渡せる「鳥ヶ首岬灯台」(昭和二十七年開設)、シーズン中はボブスレーを楽しめる「サイドパーク名立」(ここでは今カタクリとスミレが満開でした。そして山を登ること一時間、越後三十三番札所中の一番札所「岩屋堂観音堂」(注一)を見学、詳しい説明を受けました。続いて日本一の薬草工場(注二)見学後、『うみてらす名立』で海の幸の昼食を満喫して直江津駅、高田駅へ向かい解散致しました。花は無くとも実りある二日でした。

(注一)

岩屋堂観音堂 創立大宝二(七〇二)年、秘仏聖観世音菩薩(鎌倉期)を本尊として今日まで受け継がれております。

鎌倉時代執権北条時頼がその霊験にうたれて越後三十三ヶ所観音霊場の第一札所に定めました。観音堂におおいかがざるような大石や自然石を敷いただけの参道は神秘的な魅力でいっぱいです。

(注二)

薬草の製法 (南佐藤竹右衛門商店)

葎と共に刈り取られた原料のヨモギまたはオオヨモギの葉をむしり取り、三日程天日干しし、更に乾燥室で水分を減らし、石臼で挽き、モグサになる部分(葉裏の綿毛)をふるいにかけて分離する。



ひさしぶりです



宴たけなわ



木浦市長の歓迎のあいさつ





名立「光鱗」での二次会



名立「光鱗」での二次会



名立「光鱗」での二次会



名立「光鱗」での二次会



岩屋堂観音堂



越後第一番札所観音堂の説明



岩屋堂石仏



藻草製造の説明